令和　6年度　　園評価書

園番号　43　園名　小河内こども園

Ⅰ　経営の重点に関わること

評価段階（A：よくできている　B：概ねできている、C：あまりできていない、D：できていない）

1　教育・保育目標	2　重点目標	評価指標	説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
心豊かな 小河内の子	「おもしろい」をみつけよう	子どもの興味関心が,より深まったり、広がったりして遊びが持続・展開するような環境作りをしている	・子どもの興味関心がより深まるような素材や道具との出会いを工夫することでその遊びにじっくりと取り組む姿が見られた。また、気づきから「試してみよう」「こうしたらどうなるだろう」「確かめてみよう」と繰り返し予測したことを確かめる姿が見られるようになった。 ・劇遊びの際には、リズム室を忍者の世界として早い時期から環境設定したことで、子どもが忍者になりきってやりとりを楽しんだり、より良いアイディアが出てきたりした。遊びの経過や気づきをボードにすることで、振り返りができ、「次は〇〇しよう」という次への意欲につながった。	A	A	・いろいろな〝おもしろい〟を見つけよう！と取り組んでいるが、子どもが楽しさの中からおもしろさを発見していくと良いのではないか。それが子どもの心の中に残っていくと思う ・子どもは体験や経験したことが身についていくので、いかに取り入れ活用していくかが大事である ・保育者が興味を持たせる関わりをしている。「挑戦する」「克服」「ステップアップ」や「主体性」「創造性」を促している。大変でも〝楽しい〟を見出している。 ・少人数のデメリットはあるが、時代のニーズに合わせたタブレットを活用することで子どもたちが自分たちで〝気づく〟体験ができている	令和7年度～休園
		子どもが感じたことや考えたことを表現している姿や遊びの過程を捉えた関わりをしている	・保育者が日々忍者ごっこの世界を楽しみながら関わることで、忍術を自分達の生活や遊びの中に取り入れ、できるようになることが増えたり、力を合わせて取り組んだりすることにつながった。忍者の道具作りなど、子どもが試行錯誤しながらじっくり考える姿を大切にしながら援助してきたことで、試したり、予測したりしたことを〝確かめる〟おもしろさがわかってきている。自分達が考えたことや相談したことが形になっていく場面を大切にしていった。また、遊びに集中できる環境や時間配分についても、個々の姿を捉えながら見直している。	B	A		
		振り返りを通して、思いや考えを丁寧に引き出し、友だちと伝え合い、仲間関係が深まるように関わる。また、次の遊びへとつながるようにしている	・子どもの思いや考えを引き出すような声かけ（問いかけ）を行った。一人一人が楽しんだことや発見したことを共有し、友だちのやっている遊びへの興味につなげたり、遊びが深まったりするよう関わっていった。劇遊びの話し合いなど、子どものアイディアを引き出し、丁寧にすすめる事で、自分なりのこだわりや考えを根気よく友だちに伝えたり、友だちの思いを理解しようとしたり、認め合ったりする姿が増えた。タブレットを活用し、自分たちの活動を振り返り、気づいたことを伝え合えた。自分たちの姿を視覚的、客観的に捉え「今度はこうしてみよう」と次への意欲につながっていた。年間を通して忍者ごっこが楽しめた。	A	A		

Ⅱ　各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	説明	自己評価	関係者評価		
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	発達や経験の差を考慮し、適切な環境構成や援助を行っている	発達、経験の差を考慮し、柔軟な対応ができるよう、職員間で声をかけ合い活動を進めている。また、一人一人活動や遊びを通して経験していることを〝１０の姿〟と照らし合わせ職員間で育ちを捉え共有し、個々に合わせた援助を行っている。小学校へのつながりも考慮し、環境や一日の過ごし方を見直した。	A	A	・小学校入学前の大事な時期に、いろいろな関わりを通して自主性や責任感が育ってきている。 ・防災について判断力を高める減災教育の取り組みも良い ・初めての父親参加会は子どもにも親にとっても貴重な時間になったのではないか。父親も、先生から話を聞くだけでなく自分の目で見て子どもの成長が感じられる ・小学生との交流では、小学生への憧れ、自分たちの目標にもなり、新しい環境への安心材料（顔見知り）にもなっている ・様々な地域の人たちとつながりをもちながら交流できていて素晴らしいことである。年齢は違っても友だちのようなつながりが深められたのではないか。将来、子どもが成長した時結びつきが生まれてくると思う ・お世話になっている方々へのお礼は当たり前のようで、一番大切なことだと思うので、自分たちで育てたサツマイモを直接手渡し、喜んでもらえる嬉しさを感じられるのはとても良い経験になっている ・〝おもしろいを見つけよう〟…子ども時代の夢や想像の世界、ワクワクした気持ちを大事にしている。 ・小規模園であること…**公**と**私**、**集団**と**個**、**子ども**と**教員**の距離感のむずかしさがあるが、距離感、公教育としてのラインをどこに出していくかを考え、手を出しすぎない関わりをしている ・忍者のキーワードを取り入れ、指導性に一貫性をもたせている。 ・子ども達が、小集団から大きい集団になった時に、「自分で何をやればいいのか」を判断し行動できるように育っていくとよい	令和７年度～休園
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	園児数や在園時間に合わせ、安心できる生活や遊びの時間を保障している	日々、在園時間に合わせた遊びの保障ができるよう、昨年に引き続きローテーションを組んでいる。 子どもが見通しをもって安心して過ごせる生活リズムを整えた。また、メリハリのある生活の流れ（友だちと一緒に遊ぶ時間、好きな遊びを楽しむ時間、集中して一人で取り組む時間など）になるように時間の使い方を工夫している。就学後子どもが安心して過ごせるよう、小学校を想定した生活の仕方を取り入れ、学校から譲り受けた小さな机の上で荷物の管理や着替えをするようにした。	A	A		
	(3)環境を通して行う教育及び保育	堆肥作り～栽培（ESD活動）を通して循環の理解につながるように子どもと一緒に計画し最後まで取り組んでいる	手作り堆肥を活用した栽培の経験から、育て終えた畑を自分たちで草取りし、〝次は〇〇を育てたい〟と考えたり、堆肥を次の栽培に活かそうとする姿が増え、身近な循環の仕組みへの気付きにつながっている。自分のコンポストでできた堆肥を使ってチューリップの球根を植える事ができた。資源の循環の理解につながるよう、堆肥作り、飼育栽培、紙作り等の活動内容を明確にし、最後まで責任もって取り組めるようにした。	A	A		
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	ねらいを明確にした避難訓練や不審者訓練を実施し非常時の判断力を養う。ヒヤリハットした出来事を全職員で共有し安全対策を確認している	今までの各訓練の仕方について新しい情報をもとにアップデートし、現状に合った訓練が行えるようにした（不審者訓練、避難訓練）。不審者訓練では、駐在所のお巡りさんから不審者対応のポイントを学び、避難訓練では、小学校との合同訓練を実施する等防災への経験を積み重ね、子どもと共に意識を高めている。また、減災教育の考えに基づきとっさの時にも一番危険の少ない場所を探して自ら動けるよう訓練している。ヒヤリハットは、時間をおかずに状況、改善点を職員間で共有している。	A	A		
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	基本的生活習慣の自立に向けて、家庭と連携を取りながら個々に合った援助を行っている	毎日の送迎時や保護者面談で子どもの姿を伝え、家庭での様子を聞き情報が共有できるようにし、一人一人に合わせた対応ができるよにしている。生活習慣の自立に向けて具体的な手だてを一緒に考えたり、アドバイスしたりしている。就学を控えて〝時間を意識して食べる〟〝身の回りのことを自分でする〟などができるように関わっている。	B	A		
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	生活や活動の流れを可視化し、見通しをもって安心して過ごせるようにしている	朝の会、帰りの会等を通して、一日の流れ、月、週の予定を事前に知らせている。自分から進んで取り組めるよう視覚的にわかりやすい環境作りをすることで、一日の流れについて、子どもが自ら時計を見ながら見通しをもって進める姿が増えた。活動の取り組みについても文字、イラスト、時計、図等を用いながら知らせ、活動に向かって見通しをもち、自分たちがやることに対して主体的に考えたり、関わったりできるようにし、子どもと共有し進めている。	A	A		
5 組織運営	(1)組織体制の充実	各分掌が責任を持って発信し、協力して教育・保育を進めている	１０月より園児が２名となったが、様々な取り組みに対して園児２名でもできるやり方を出し合い、各リーダーが企画をたて準備～実施まで職員間で協力し合って進めた。その際、内容を話し合い、子どもたちにあったものか見通しながら検討し、子どもの姿・様子・育っていきたいことなどを職員間で共有した。	A	A		
6 研　修	(1)研修体制の充実	日々の振りかえりや園内研修を通して子どもの姿、遊びの過程、環境構成、保育者の関わりを共有している	日々職員間で子どもの姿から気づいた事を語り合っている。その子にとって「ここを深めたい！…学びにつなげたい！…」と思う場面について話し合う中で、自分の手だてや関わりを振り返り、次につながる保育の方向性を見つけている。おもしろボード（日々）から月反省、また、公開保育を通しての園内研修では、経験している事、１０の姿からの読み取りから、「一人一人の育ち」「育ちつつあるところ」「育ってほしいところ」などが分析でき、保育の手だて（環境設定、再構成、必要な援助）につながった。公開保育の事後研修では、他園の保育教諭や小学校教諭にも参加していただき意見交換し、子どもの育ち、１０の姿からの読み取りを共有できた。	A	A		
7 教育・保育環境　整備	(1)教育・保育環境の充実	「やってみよう」「おもしろそう」と思えるような環境を整えている。また、子どもの姿に合わせて再構成している	子ども達の共通の遊びとして忍者の世界を１年間楽しめるように時期に合わせた環境設定や取り組みを行った。子どものアイディアを引き出し、遊びの展開に合わせて再構成していくことでより遊びが広がっていった。保育者自身が教材研究の中で調べて試すことで、子どもたちにどんな環境を用意したら「やってみよう」と思えるか意識することにつながっている。	A	A		
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	遊びの中で育っている子どもの力や保育者の意図を可視化しながら保護者に伝え、子どもの育ちを共有している	日々、リアルタイムに掲示するおもしろボードを通して保護者の方と会話もはずみ、子どもの育ちや遊びの過程を共有できた。父母だけでなく、祖父母会でも園運営や子どもの育ちについてパワーポイントを活用し知らせ、祖父母とも子どもの姿を共有した。コドモンの活用（クラスだより、キラキラフオト等）も状況に合わせて使い分け、園での子どもの興味、関心、育ちを発信している。	A	A		
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	小島地区の目指す子どもの姿に向けて近隣園、近隣校と情報交換しながら、交流を深めている	小島交流では毎回打ち合わせ～振り返りを行う中で子どもの姿や課題を共有しながら進めることができた。交流の積み重ねにより、刺激し合ったり、友達関係の広がり、深まりにつながっている。普段経験できない集団の遊びの中での子どもの姿から気づきや学びがあった。小学校とのつながりを深め就学が楽しみになるよう行事に参加させてもらったり、見学ができるように働きかけたりしている。小学校との2校1園交流、運動会、合同訓練、音楽会への参加や、中学校との合唱祭、職場体験への参加を通して児童と園児がふれあう機会が増え、縦のつながりが深まり、親近感をもつことや憧れにつながった。	A	A		
１０ 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	自然に触れる機会を増やし、人とのつながりを深めたり、感謝の気持ちを伝えたりし、地域の良さを感じられる場をつくっている	お元気会（デイサービス）の方々と関わったり、栽培のお手伝いしてもらう中で定期的に地域の方と関わることができた。また、ミカン狩りや茶室でのお茶会など貴重な体験を通して子どもたちが小河内の良さや感謝の気持ちを感じている。畑で収穫した野菜をお世話になっている地域の方にプレゼントしたり、クッキングして作ったものを一緒に味わったり、感謝の気持ちを伝え地域の方とのつながりを大切にしていった。	A	A		